

令和5年11月16日開催

未来創造・教育力向上特別委員会

委員長報告

令和5年12月定例会

委員長 前原博孝

去る11月16日に開催されました当委員会の審査概要について、順次ご報告申し上げます。

初めに、報告事項の1「令和5年度チャットGPTの実証実験について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

対話型生成AIであるチャットGPTは、使いやすさと高い利便性から世界中で利用が拡大しており、民間をはじめ国や地方自治体でもその利用について注目を集めていることから、本市において、職員の業務効率化などにどの程度有用なのかを検証するため、全庁的な実証実験を実施したとのこと。

実施にあたっては、生成AIの回答内容が必ずしも正確でないことや情報漏えいなど様々なリスクが指摘されていることを踏まえ、自動学習せず情報漏えいの懸念がないシステムを選定するとともに、生成AIの利用に関する留意事項等をまとめた「川口市職員の生成AI利用ガイドライン」を策定し、生成AI利用による課題やリスクへの理解促進を図るため、実証実験の参加者に対し事前に研修を行なったとのこと。

実証実験の結果としては、業務の質の向上や職員の負担軽減につながるものとして、多くの職員が評価し、市民サービスの向上や業務時間の短縮などの効果が見込まれるとのこと。

今後については、今回の実証実験を踏まえ「川口市職員の生成AI利用ガイドライン」を見直すとともに、継続的に職員に対してガイドラインの周知徹底を図り、令和6年度以降の導入について検討を進めるとのことでありました。

以上のような説明に対して、自動学習する対話型生成AIの有用性について問われ、これに対して、生成AIが本市に特化した情報を学習することで、市の実情に即した回答が期待でき、市民サービスの向上が見込まれる一方で、学習した情報を他者への回答に引用されるなど情報漏えいの恐れがあることから、引き続き、システムの仕様など研究していくとのことでありました。

このほか、想定される導入費用について等、質疑応答の後、本報告を終了いたしました。

最後に、報告事項の2「いじめ根絶に向けた取り組み状況について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

いじめ根絶に向けた取り組みとして、いじめ問題対策協議会及び小・中学校の代表児童生徒を対象とした、いじめゼロサミットを開催したほか、生徒指導担当指導主事による要請訪問及び学校訪問により、各学校のニーズに応じた研修や生徒指導上の諸課題の解決に向けての指導・助言を行なっているとのこと。

いじめ問題に関する調査状況については、5事案について報告があり、1事案は、いじめ問題調査委員会が設置され、調査継続中であるとのこと。残る4

事案は、保護者からいじめ問題調査委員会の設置を希望しない旨の回答があったとのことであります。

以上のような説明に対して、第三者委員の派遣調整を行う川口市いじめ問題調査委員会人財バンクの登録状況について問われ、これに対して、現在は、人権擁護委員会1団体が登録しているが、委員選定を円滑に行い、速やかに調査委員会を開催するため、今後は、個人も含め、登録者数が増えるよう周知等に努めていくとのことであります。

このほか、生徒指導担当指導主事による要請訪問の実施件数について等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

以上で報告を終わります。